

南三陸町地域資源プラットフォーム

基本計画提言書（案）

南三陸町地域資源プラットフォーム設立準備委員会

ver.1_171108

目次

目次	1
はじめに	1
1 地域資源プラットフォームのビジョンとミッション.....	2
1-1 ビジョン（実現したい未来）	2
1-2 地域資源プラットフォームのミッション	2
2 地域資源プラットフォームの機能.....	3
2-1 地域資源研究機能	3
2-2 産業創出・育成支援.....	3
2-3 人材育成機能	3
2-4 各機能間の連携	3
3 地域資源プラットフォームの実現による地域への効果.....	5
4 地域資源プラットフォームの事業計画.....	6
4-1 設立時事業計画	6
4-2 長期展望.....	6
5 地域資源プラットフォームの組織と運営.....	7
5-1 地域資源プラットフォームの組織	7
5-2 地域資源プラットフォームの運営	7
むすびに ～新たな官民連携の形によるまちづくりの推進に向けて～...8	
資料集	9

はじめに

本提言書は平成 28 年（2017 年）3 月に提出した「南三陸町地域資源プラットフォーム設立に向けた基本構想提言書」の内容を元に、平成 29 年度に開催した 6 回の設立準備委員会における議論を得て作成したものである。

「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸町」というまちの将来像実現を目指し、官民連携で地域資源を活かすプラットフォームをつくるという目的のため、設立準備委員会には 18 名の委員が様々な立場から参加した。委員会では、アドバイザーも交え、プラットフォームの機能や官民の連携のあり方について、毎回率直で真摯な議論が交わされた。

．．．．

1 地域資源プラットフォームのビジョンとミッション

1-1 ビジョン（実現したい未来）

地域資源プラットフォームで実現したいビジョンは、人の手で地域資源の適切な管理を行うことで生き物が生き活きと育つ環境を作り出し、そこから自然の恵みが持続的に帰ってくる地域社会を実現することであり、1次産業から始まる生業（なりわい）もしっかりと仕事として成り立ち、次世代の担い手の確保がなされている未来である。

自然資源を活かしながらその恵みを得続けられる豊かさと、災害から速やかに立ち上がる強靭さが同居する南三陸の暮らし方が世界に認められており、その中で住民が誇りを持って暮らしていること、それが求める「いのちめぐるまち」の姿であり、本プラットフォームの関与により実現したいビジョンである。

1-2 地域資源プラットフォームのミッション

ビジョンを実現する「いのちめぐるまち」のしくみづくりを本プラットフォームのミッションとし、具体的に次の3つの事柄を推し進める。

- 1 研究デザインから森里海とひとのつながりを可視化
- 2 南三陸らしい価値をつくるなりわい創出支援
- 3 次世代教育（鮭的人材育成）

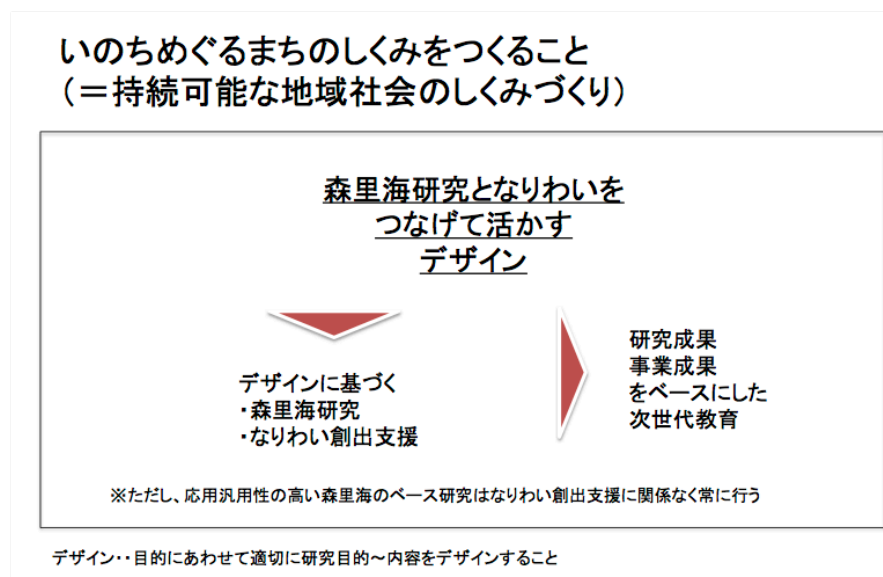


図1

2 地域資源プラットフォームの機能

2-1 地域資源研究機能

森里海ひとのつながりを可視化し、いのちめぐるまちの実現に必要な要素・技術・思想形成を推し進めるための研究を行う。

研究は、必要に応じて大学や企業などと共同で推進し、研究の方向性や参加機関の役割などについて、積極的に関与（研究デザイン）することで、南三陸が目指すいのちめぐるまちの創造に必要な情報が蓄積されることを目指す。

2-2 産業創出・育成支援

地域資源研究の研究デザイン力を活かし、ASC 認証のカキの高付加価値化や FSC 材の活用など、第1次産業の持続に寄与する環境認証取得品の付加価値向上につながる支援を行う。各製品のブランド化戦略策定と売り先等の開拓により、自然の恵みが将来にわたって受け続けられる地域となるための産業基盤の強化・構築に貢献する。

また、南三陸のいのちめぐるまちづくりに関わる事業者や住民が、定期的に情報交換を行い、それぞれの事業の抱える課題や独自の取り組みによる成果を共有し、学び合うための場としての協議会を設置し、本プラットフォームはその事務局機能を担う。

2-3 人材育成機能

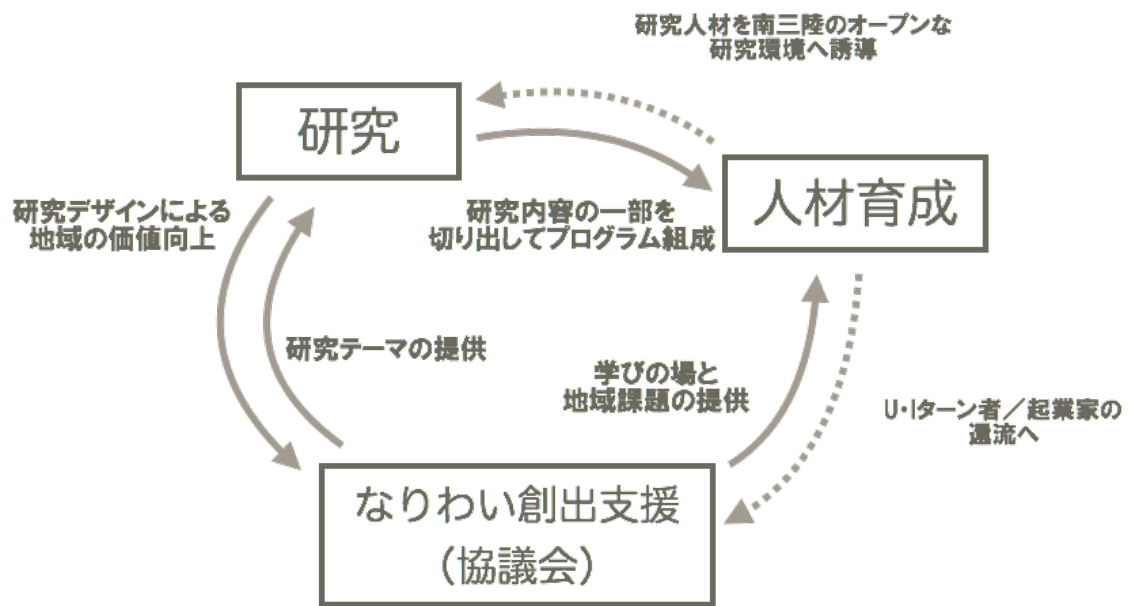
地域の資源を理解し、いのちめぐるまちの担い手となる人材の育成を行う。

対象は、町内の小中学生から外部の社会人までで、地域資源研究により培った、いのちめぐるまちの仕組みについての理解を教育プログラムに反映し、様々なレベルに応じた学びの機会を提供する。

上記の科学的なもの見方に加え、実際にフィールドで地域資源に触れ、地域で活動している方からその現状をうかがう機会は、多くの学びをもたらすものであり、これらを一連のプログラムとして提供することで、地域の課題を自分事化し、その解決に向けて情熱を持って取り組むことができる人材輩出を目指す。

2-4 各機能間の連携

各機能は、地域資源研究を核として図2のような関係にあり、いのちめぐるまちの実現に必要な要素・技術・思想構築に関連する知の蓄積と産業創出支援による経済効果、そして次世代育成プログラムの開発・提供による人材育成を効果的に連関させつつ推進する。



※シナジー（相乗効果）が生まれる事業に注力する。

図2

3 地域資源プラットフォームの実現による地域への効果

地域資源プラットフォームの実現による効果には、次のようなものが考えられる。

1) 地域の事業者・住民にとって

- ①地域の姿を科学的な視点から客観的に見るための情報が集積し、地域の現状に対する理解が深まる。
- ②地域資源の持続可能な活用方策について、地に足のついた議論ができるようになる。
- ③地域の資源を活かした産業に携わる方が、自信を持って地元の取り組みを語れるようになる。
- ④事業者間での情報交換の機会が増え、それぞれの事業への刺激となるとともに、まちづくりに取り組む仲間意識の醸成につながる。
- ⑤いのちめぐるまちを目指す様々な取り組みをこども達が学び、地域課題を自分事化して考えられるようになることで、地域への愛着や課題解決のための学習意欲の向上につながる。

2) 地域外の方にとって

- ①持続可能な社会や循環型のまちづくり、地域課題の解決などについて、知見を得たい、学びたいという方にとっては、またとない機会の提供の場となる。
- ②研究テーマが重なる研究者にとっては、データ収集や実証実験ができる貴重なフィールドの一つとなる。
- ③いのちめぐるまちの取り組みに共感した方にとっては、自身のライフステージの一部として関わりを持つことを考えるきっかけとなる。

4 地域資源プラットフォームの事業計画

4-1 設立時事業計画

地域資源プラットフォームの設立から数年間の事業計画について、表1に示す。

当初は、町の課題となっているASCカキのブランド化に資する事業を行いつつ、最初の数年で各事業を育てながら、活動を軌道に乗せ、自立的な運営を目指す。

4-2 長期展望

長期的には、地域資源プラットフォームは、、、

5 地域資源プラットフォームの組織と運営

5-1 地域資源プラットフォームの組織

いのちめぐるまち実現に向けたミッションの達成において、以下の点に留意した組織作りが必要である。

- 1) 非営利事業の事業体としての定義
- 2) 意思決定の迅速さ
- 3) 立ち上げの容易さ
- 4) 共感と支援の受けやすさ

図3は法人格を持つ事業体のうち、主たるものについて整理を行ったものである。

このうち、1)により除かれる株式会社以外で検討すれば、2)及び3)の要件に最も合致するものは一般社団法人である。

多くの方の共感と支援を集める上では、公益性の高いNPO法人や公益財団法人を選ぶ戦略もあるが、将来的に公益社団法人を目指すことでこの部分も担保されるので、速やかに活動を始め、実績を出すことを優先させれば、非営利事業を行う一般社団法人を選択することが妥当である。

5-2 地域資源プラットフォームの運営

むすびに ～新たな官民連携の形によるまちづくりの推進に向けて～

未曾有の震災に見舞われたなか、本提言書の

本提言書の議論は、南三陸町が定めた地域再生計画事業の一環として進められたものであり、その推進にあたっては、企業版ふるさと納税を財源の一部として活用させて頂いた。その額は 2 年間で●円であり、震災からの復興を目指し、いのちめぐるまちを将来像に掲げる南三陸町にとって、大変大きな後押しとなった。ここにご寄付を頂いた社名を記し、深謝申し上げる。

〇〇水産

武田薬品工業株式会社

(株) 石川可鍛製鉄

(株) カネタ

(株) マルト

こうしたご支援を糧に、民間委員 14 名（平成 28 年度は 15 名）、行政の委員 4 名（平成 28 年度は 3 名）が、町の魅力を底上げする方策について、前向きで建設的な雰囲気の中で本音をぶつけ合い、真の意味での議論を交わす「場」を設けることができたのは、官民連携の推進という意味でも非常に大きな前進であった。

確実に減り続けることが予想される人口は、自治体の体力を奪い、今後の行政機能は縮小を余儀なくされるであろう。その中で、民でできることは民に任せ、町民が自分事としてのまちづくりを行う環境を整える上でも、地域資源を理解し、伝え、適切な使い方を編み出していく本プラットフォームに期待される役割は大きい。

本提言書の内容を受けて、今後は官民がそれぞれの役割をしっかりと果たしつつ、さらなる連携を図り、地域資源プラットフォーム構想を実現させていくことが求められる。

資料集